

# 中国山東省における大学生の性に関する知識, 態度及び行動について

## Sexual Knowledge, Attitudes and Behaviours among Chinese University Students in Shandong Province, China

崔 旭<sup>1</sup>・笠井直美<sup>2</sup>

Cui Xu and Kasai Naomi

### Abstract

**Objective** To analyze the status of sexual knowledge, attitudes and behaviours among Chinese University Students in Shandong Province, China. **Methods** An anonymous, self-administered questionnaire survey was conducted in two universities among 693 students in Shandong Province, China. The age range of the subjects was 18 to 35 years old and the average age was 20.8 years old. A total of 578 valid questionnaires were collected. And university students from Shandong Province were 425 which were analyzed in this report. **Results** About sexual knowledge, 89.6% of the University Students understand AIDS and the route of transmission, 93.3% of the males and 88.1% of the females respectively. From a regional perspective, 89.3% of the respondents from the countryside, 89.6% of the respondents from the city, and 90.5% of the respondents from the suburbs. But the correct rate of questions about AIDS is low. About sexual behaviours, 15.4% of the university students had sexual experience, 19.7% of the males and 13.6% of the females respectively. From the regional perspective, 12.0% of the countryside, 19.3% of the city, 20.6% of the suburbs had sexual experience. About sexual opinions of contraception, female students have more intense consciousness than male students. Students come from the city and suburbs have a higher rate of consciousness than students from the countryside. About the implementation rate of condoms, female students (58.8%) use condoms more than male students (47.1%). Students that come from the countryside (56.5%), and the suburbs (66.7%) use condoms more than the students from the city (47.4%). **Conclusion** The sexual knowledge of the University Student is unbalanced between the countryside, city, and suburbs, especially about STI. The sexual behaviours of the university student from Shandong Province is not low. And the male university students have more knowledge than female students about STI. The sexual education should be promoted more in the countryside, and should be paid more attention to the difference between male students and female students.

**Key Words:** Sexual knowledge, attitudes and behaviours, University Students from Shandong Province of China

### 1. はじめに

「2016年中華人民共和國（以下、中国と省略する）全国におけるエイズ、性感染症、肝炎の予防や治療工作に関する年次報告」<sup>1)</sup>によれば、2008～2015年、中国における15歳以上の生徒や大学生のHIV感染者及びエイズ患者が増加している。中国疾病予防控制中心ら<sup>2)</sup>によると、2017年新たなHIV感染者やエイズ

---

2019.6.24 受理

<sup>1</sup> 新潟大学大学院現代社会文化研究科

<sup>2</sup> 新潟大学教育学部

患者の感染経路について、上位三位は異性性行為（69.6%）、同性性行為（25.5%）、薬物濫用による注射（3.2%）であった。中国の青少年及び若者に対するエイズなどの性感染症に関する教育の実施は、切迫した状況であるといえる。

範明林、沈菲<sup>3)</sup>によれば、近年、中国の大学生は性交渉の経験率が高くなると言われている。王粒<sup>4)</sup>によると、中国の大学生は性意識が開放的になっている傾向がある。一方、王香梅<sup>5)</sup>、周燦燦、劉叡娜<sup>6)</sup>らは、避妊及びエイズなどの性感染症に関する大学生の予防知識の不足を指摘している。また、中国大学生の性意識及び性行動が変化している一方、性に関する教育は小学校<sup>7)</sup>、中学校<sup>8)</sup>、高校<sup>9)</sup>及び大学<sup>10)</sup>において十分とは言えない。

また、2016年、中国国務院が「健康中国2030 計画綱要」<sup>11)</sup>を公布した。その第五章第四節では、以下の二点を明記している。①望まない妊娠、STI及びエイズに関する病気を予防するために、青少年、出産育児期の女性を主な対象として、性に関する道德教育、健康教育及び安全教育を実施する。②STI及びエイズなどの疾病に感染する可能性が高い者に対して、総合的な性に関する教育及び関与行動を実施する。それにより、中国政府が徐々に性に関する教育を重視していることが明らかになった。

筆者は2016年7月18日～8月10日において、日本のA大学で中国人留学生118名に対し、健康教育に関して、無記名式自記式質問紙調査を実施した。その結果から調査対象者の出身地を分析すると、山東省出身の留学生が最も多かった。調査結果により、都市部、農村部、中間部にある保健教育及び保健管理に差があり、性に関する教育にも差のあることが明らかになった。したがって、調査対象者が多く含まれた山東省をより深い調査を行うこととした。

さらに、中国教育統計年鑑（2014）<sup>12)</sup>の分類によると、中国における各地域の教育事情は都市部、農村部、県鎮（以下は「中間部」と記する。）に区分して分析されている。王娟、常征<sup>13)</sup>によると、城郷結合部（以下は「中間部」と記する。）は、20世紀80年代末期から、中国における市場経済の発展に伴い、都市の規模及び数が激増している。このため、「中間部」は独立的な研究対象として重視され、1988年において広州市計画局によって、初めて「中間部」と定義された。沿海の大都市において、農村部からの労働力が大量に増加したことにより、都市の規模及び都市用地が拡大し、多くの問題が発生した。例えば、環境問題、都市郊外地区の交通問題などである。本研究での大学生の出身地に関する質問においても、都市部、農村部、中間部の選択肢を設けた。



【図1】山東省地図<sup>16)</sup>

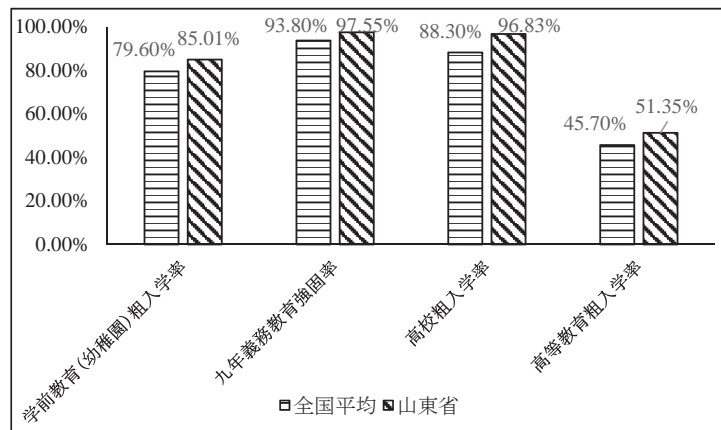
## 2. 調査地区概要

2017年地方政府工作報告数据快报<sup>14)</sup>によると、山東省は中国の2016年度GDPランキングにおいて第3位であった。山東統計年鑑（2018）<sup>15)</sup>が公布したデータによれば、2017年において山東省の人口は1億6万人である。山東省の人口<sup>17)</sup>は中国全域で2番目に多い省であり、人口移動は省内移動率が高い。思想について、李国恩<sup>18)</sup>によれば、山東省は農業を重視する伝統的な思想が強く、「住み慣れた土地は離れ難い」という考え方があると述べた。また、男尊女卑、尊老愛幼の思想も昔から

存在する。王浩、張娜<sup>19)</sup>によると、山東省におけるHIV感染者及びエイズ患者が、まだ低流行状態にあり、河南省、四川省、広西チワン族自治区、広東省などの地域より低い。しかしながら、この20年間、特

に2009年以降、エイズ流行が速まった。

教育水準について、中国全域に比べ、山東省は高い水準にある。山東省第六次人口普查辦公室(2011)<sup>20)</sup>によると、山東省の常住人口(9579.31万人)には、大学の教育を受けた人は8.69%、高校(専門学校)は13.9%、小学校は24.96%を占めた。中華人民共和國教育部(2017)<sup>21)</sup>のデータには、山東省における大学及び専門学校は125ヶ所あり、中国全国の第3位であると記載している。また、2018年、山東省教育庁(省委教育工委)<sup>22)</sup>が発表した「山東省教育改革開放40周年研究報告」によれば、2017年、山東省における幼稚園の粗入学率は85.01%、九年義務教育の強固率(九年義務教育強固率とは、ある学校の入学人数と卒業生数の割合である。)は97.55%であった。高校の粗入学率は96.83%、高等教育の粗入学率は51.35%であった。中華人民共和國教育部<sup>23)</sup>によって、山東省の各学校種における粗入学率と全国の平均粗入学率の対比は以下の図2で表す。各学校種における山東省の入学率は中国全国の平均値より高かった。



【図2】各学段における山東省の粗入学率及び中国全国の平均値

(出所: 山東省教育庁(省委教育工委)<sup>22)</sup>(2018), 中華人民共和國教育部<sup>23)</sup>(2018)を基に筆者作成)

以上の内容を踏まえ、山東省にある大学の学生を例として、大学生の性行動に関する現状を把握することとした。その結果を基に、中国の大学教育への性に関する教育の導入について検討を行うことを考えた。本研究においては、男女別、地域別に中国の山東省における大学生の性に関する知識、態度及び行動の現状を分析することを目的とする。

### 3. 方法

#### (1) 調査実施時期、調査対象及び調査方法

2017年5月22日～5月25日に、中国山東省におけるB大学に在籍の328名の大学生、2017年9月14日～9月19日に、中国山東省におけるC大学に在籍の365名の大学生に対し、無記名式自記式質問紙調査を実施した。

#### (2) 調査内容

本研究では、調査対象者(大学生)が就学した小学校における保健室または衛生室の有無、小学校で性に関する教育をうけた情況、今までの性交渉の経験の有無、避妊方法に関する知識の有無、エイズ及び性感染症に対する予防方法の認知、小学校における性に関する教育の導入に対する考え方等である。

質問紙作成は、2011年10月から2012年2月まで日本性教育協会が行っている「第7回青少年の性行動全国調査」の調査票を参考にし、中国国内の大学生の性行動、性行為や性意識に関する論文を参照した上で質問紙を行った。

### (3) 倫理的配慮

#### 1) 倫理審査

本研究の実施に先立ち、新潟大学倫理審査委員会の審査を受けた（通知番号2017-0281）。2017年3月に調査の実施人数・実施期間・質問紙調査の内容について、中国山東省のB大学、C大学における大学生を管理する補導員の許可を得た。補導員とは、中国の大学で学生の勉強・生活・心理などを支援する補導教員である。学部ごとに3～4人がいる。

#### 2) 倫理配慮

中国人留学生に対して調査を依頼する際に、研究方法と倫理的配慮について質問調査用紙の表紙を用い、且つ口頭で説明を行った。質問紙は無記名自記式であり、質問紙への回答と用紙の回収をもって同意とした。研究に関する説明書には以下の内容を含めた。①質問紙調査は無記名である。②答えたくない部分には、何も書かずに提出しても可能である。③回答内容及び個人情報とは秘密厳守する。

#### 3) 分析方法

統計解析には、IBM SPSS Statistics 24 for windowsを用いた。変数の単純集計後、各項目間のクロス集計を中心に分析を行った。

## 4. 結果

### (1) 調査対象者の概要

調査対象者は693名であり、回答協力者は578名（回収率83.4%）であった。本論文においては、山東省出身者を抽出して分析した。その中で、山東省の出身者は425名であり、男性は125名（29.4%）、女性は296名（69.6%）、性別不明は4名（0.9%）である。年齢区分について、調査対象者の年齢の範囲は18～35歳であった。その中で、「18～23歳」367名（86.4%）、「24～29歳」36名（8.5%）、「30歳以上」3名（0.7%）、年齢不明は19名（4.5%）であり、平均年齢は20.8歳であった。出身地区によって分析すると、農村部239名（56.2%）、中間部64名（15.1%）、都市部117名（27.5%）、出身地区不明は5名（1.2%）であった。学歴について、学部在学者371名（87.3%）、大学院博士前期在学者47名（11.1%）、博士研究員1名（0.2%）、学歴不明6名（1.4%）であった。

### (2) 性に関する知識について

表1は、エイズに関して知る状況（男女別）を表している。「知っている。感染経路も知っている。」を選んだ者が最も多く、男女とも約90%になった。「聞いたことがあったが、感染経路を知らなかった。」を選んだ者について、男性は6.7%、女性は10.6%であった。また、「聞いたこともなかった」を選んだ者について、男性は0.0%、女性は1.4%であった。

表1 エイズに関して知る状況（男女別）

	全体 (n=413)		男性 (n=120)		女性 (n=293)	
	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率
知っている。感染経路も知っている。	370	89.6%	112	93.3%	258	88.1%
聞いたことがあったが、感染経路を知らなかった。	39	9.4%	8	6.7%	31	10.6%
聞いたこともなかった。	4	1.0%	0	0.0%	4	1.4%

表2は、エイズに関して知る状況（地域別）を表している。「知っている。感染経路も知っている」を選んだ者について、「農村部」、「都市部」、「中間部」出身の学生の中で、「知っている。感染経路も知っている。」を選んだ者は8割以上であった。また、「聞いたこともなかった。」を選んだ者は、「農村部」出身2人（0.9%）、「都市部」出身2人（1.7%）であった。

表2 エイズに関して知る状況（地域別）

	全体 (n=412)		農村部 (n=234)		都市部 (n=115)		中間部 (n=63)	
	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率
知っている。感染経路も知っている。	369	89.6%	209	89.3%	103	89.6%	57	90.5%
聞いたことがあったが、感染経路を知らなかった。	39	9.5%	23	9.8%	10	8.7%	6	9.5%
聞いたこともなかった。	4	1.0%	2	0.9%	2	1.7%	0	0.0%

表3は、エイズのことを始めて知った年齢を示している。エイズのことを始めて知った年齢について、中学校時代（13～16歳）と回答した者が最も多く、男性は52.0%、女性は52.1%であった。また、大学時代（22～26歳）から始めて知ったと回答した者において、男性は3.3%、女性は4.5%であった。

表3 エイズのことを始めて知った年齢（男女別）

	全体 (n=413)		男性 (n=123)		女性 (n=290)	
	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率
幼稚園時代（3～5歳）	2	0.5%	1	0.8%	1	0.3%
小学校時代（6～12歳）	92	22.3%	32	26.0%	60	20.7%
中学校時代（13～16歳）	215	52.1%	64	52.0%	151	52.1%
高校時代（17～20歳）	69	16.7%	20	16.3%	49	16.9%
大学時代（22～26歳）	17	4.1%	4	3.3%	13	4.5%
覚えていない。	18	4.4%	2	1.6%	16	5.5%

表4によると、エイズのことを始めて知った年齢は、農村部（50.0%）、都市部（56.1%）、中間部（51.6%）とも、中学校時代（13～16歳）を選択した者が最も多かった。また、都市部においては、幼稚園時代（3～5歳）にエイズのことを始めて知った者もいる。さらに、高校時代（17～20歳）に始めてエイズのことを知ったものは農村部出身者（20.9%）が最も多かった。

表4 エイズのことを始めて知った年齢（地域別）

	全体 (n=412)		農村部 (n=234)		都市部 (n=114)		中間部 (n=64)	
	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率
幼稚園時代（3～5歳）	2	0.5%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%
小学校時代（6～12歳）	92	22.3%	49	20.9%	22	19.3%	21	32.8%
中学校時代（13～16歳）	214	51.9%	117	50.0%	64	56.1%	33	51.6%
高校時代（17～20歳）	69	16.7%	49	20.9%	14	12.3%	6	9.4%
大学時代（22～26歳）	17	4.1%	10	4.3%	5	4.4%	2	3.1%
覚えていない。	18	4.4%	9	3.8%	7	6.1%	2	3.1%

表5は、エイズに関する知識や情報の習得方法（男女別）を表している。習得方法の上位三位は「学校（先生、授業、教科書）」、「インターネット」、「友人や先輩」であった。また、「学校（先生、授業、教科書）」を選んだ者は最も多く、男性は77.2%、女性は86.6%であった。「その他」を選んだ者の答えをまとめると、「パンフレット、ポスター」、「社团（日本の大学におけるクラブのようなものである。エイズなどの健康知識を宣伝するクラブが存在している）」、「病院の掲示板」、「試合に参加した時に勉強した」であった。この結果により、中国山東省においてエイズに関する教育を学校で着実にを行っていることが明らかとなった。



表5 エイズに関する知識や情報の習得方法 (男女別)

習得方法	全体 (n=413)		男性 (n=123)		女性 (n=290)	
	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率
学校 (先生, 授業, 教科書)	346	83.8%	95	77.2%	251	86.6%
インターネット	221	53.5%	78	63.4%	143	49.3%
友人や先輩	73	17.7%	27	22.0%	46	15.9%
雑誌	72	17.4%	24	19.5%	48	16.6%
テレビ	67	16.2%	19	15.4%	48	16.6%
保護者	49	11.9%	16	13.0%	33	11.4%
付き合っている人	9	2.2%	6	4.9%	3	1.0%
その他	5	1.2%	1	0.8%	4	1.4%
アダルトビデオ	4	1.0%	2	1.6%	2	0.7%

表6は、エイズに関する知識や情報の習得方法 (地域別) を表している。出身地域に関わらず、学校 (先生、授業、教科書) を選んだ者が最も多かった。二番目に多い習得方法はインターネットであった。さらに、インターネットでエイズに関する知識を習得する者の中で、都市部出身者 (59.3%) 及び中間部出身者 (57.8%) の比率が農村部出身者 (49.8%) の比率より高かった。

表6 エイズに関する知識や情報の習得方法 (地域別)

	全体 (n=412)		農村部 (n=235)		都市部 (n=113)		中間部 (n=64)	
	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率
学校 (先生, 授業, 教科書)	345	83.7%	204	86.8%	93	82.3%	48	75.0%
インターネット	221	53.6%	117	49.8%	67	59.3%	37	57.8%
テレビ	67	16.3%	33	14.0%	23	20.4%	11	17.2%
友人や先輩	73	17.7%	36	15.3%	20	17.7%	17	26.6%
雑誌	72	17.5%	46	19.6%	12	10.6%	14	21.9%
保護者	49	11.9%	17	7.2%	19	16.8%	13	20.3%
付き合っている人	9	2.2%	6	2.6%	1	0.9%	2	3.1%
その他	5	1.2%	3	1.3%	1	0.9%	1	1.6%
アダルトビデオ	4	1.0%	1	0.4%	3	2.7%	0	0.0%

表7は、性に関する知識の質問の正答率を示している。性に関する12質問を4種類に分けて分析する。

種類1は、避妊に関する質問である。質問a・h・i・j・kはこの種類に所属している。「陰外射精 (外だし) は、確実な避妊方法」ではないことについて、全体の45.3%の大学生が正しく理解できている。さらに、男子大学生 (52.5%) より、女子大学生 (42.3%) の正答率が低く、この問題では男女間に有意差があった。また、緊急避妊薬 (i・j) と経口避妊薬 (h) に関する質問の答えを比べると、緊急避妊薬に関する質問 (i・j) の正答率が高かった。「緊急避妊薬は女性の体に危害がない薬である」について、全体正答率は80.7%、男性は76.9%、女性は82.3%であった。「緊急避妊薬は一年間何回を服用しても体に悪い影響を及ぼさない」について、全体正答率は61.2%、男性58.1%、女性62.5%であった。

種類2は、身体の発育発達に関する質問について、質問b・cはこの種類に所属している。排卵 (「排卵は、いつも月経中におこる」) 及び精通 (「精液がたまりすぎると、身体に悪い影響がある」) の質問に対して、排卵に関する質問の全体正答率 (44.9%) が精通のそれ (26.3%) より高い。男女別で見ると、精通に関する質問の正答率は、男子大学生 (27.4%) と女子大学生 (25.9%) である。この結果から、どちらも乏しいことがわかる。精通に関する知識は、男女別に有意差があった。このことから、女性は男性の生理機能に関する認識がやや不足していることが推測できる。

種類3は、性感染症及びエイズに関する質問について、質問d・e・f・gがこの種類に所属している。質問dの全体正答率は19.0%であった。「クラミジアや淋病などの性感染症」に関する知識は非常に足りない状態である。男女差では有意差があった。また、エイズの感染経路に関する質問gの全体正答率は29.4%である一方、感染経路の質問fの全体正答率が57.2%であった。

種類4は、LGBTに関する質問lである。同性愛が疾病ではないことを69.7%の大学生が正しく理解できる。

男女別に分析すると、女子大学生（72.0%）が男子大学生（64.1%）より正しく理解できていることを示した。

表7 性に関する知識の質問の正答率について（男女別）

質問	全体		男性		女性		$\chi^2$ 検定
	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	
a. 膣外射精（外だし）は、確実な避妊方法	180	45.3%	62	52.5%	118	42.3%	*
b. 排卵は、いつも月経中におこる	178	44.9%	45	38.5%	133	47.7%	
c. 精液がたまりすぎると、身体に悪い影響がある	104	26.3%	32	27.4%	72	25.9%	*
d. クラミジアや淋病などの性感染症を治療しないと、不妊症になる（赤ちゃんができなくなる）ことがある	75	19.0%	26	22.2%	49	17.6%	*
e. 中国でこの10年間、新たにHIVに感染する人とエイズ患者は増えていない	254	64.3%	79	67.5%	175	62.9%	
f. エイズ患者あるいはHIV感染者と一緒に水泳すること、食事すること、シャワーを浴びること、ハグすることはHIVに感染しない	226	57.2%	69	59.0%	157	56.5%	
g. 唾液、蚊が原因でHIVには感染しない	116	29.4%	35	29.9%	81	29.2%	
h. 経口避妊薬（低用量ピル）の避妊成功率は、きわめて高い	40	10.2%	11	9.4%	29	10.5%	
i. 緊急避妊薬は女性の体に危害がない薬である	318	80.7%	90	76.9%	228	82.3%	
j. 緊急避妊薬は一年間に何回も服用しても体に悪い影響を及ぼさない	241	61.2%	68	58.1%	173	62.5%	
k. 人工妊娠中絶は危険がまったくない	331	84.0%	94	80.3%	237	85.6%	
l. 同性愛は疾病である	276	69.7%	75	64.1%	201	72.0%	

\*  $p < 0.05$

表8に関する分析は、表7と同じく4種類に分け分類する。避妊に関する種類1(a・h・i・j・k)の質問について、全ての質問の正答率は、都市部出身の大学生が最も高かった。緊急避妊薬i（80.7%）、緊急避妊薬j（61.3%）及び人工妊娠中絶k（84.0%）に関する質問について、地域に問わず、正答率が5割以上になった一方、経口避妊薬h（低用量ピル）（10.2%）に関する質問の正答率は非常に低く、有意差があった。さらに、膣外射精（a）（45.5%）に関する質問について、農村部出身者（37.1%）の正答率は最も低く、有意差があった。緊急避妊薬及び人工妊娠中絶については、女性は健康に大きな影響を与えるものとして、他の項目より理解が高いことが示された。

身体の発育発達に関する種類2の質問（b,c）について、都市部出身の学生の正答率が最も高く、排卵に関する質問bは、49.5%であり、精液に関する質問cは、29.4%であった。また、排卵に関する質問は、地域を問わず、全体正答率は44.8%で、精液に関する質問cの正答率は26.4%であった。

性感染症及びエイズに関する種類3（d,e,f,g）の質問について、HIVの感染経路に関する質問fの正答率は、中間部出身者（61.3%）は最も高く、次は都市部出身者（54.1%）、最後は農村部出身者（57.8%）であった。また、HIVの感染経路に関する質問gの全体正答率が29.5%であった。さらに、性感染症に関する質問dについて、全体正答率が19.0%であり、その中で都市部出身者が最も高かった（24.8%）。HIV感染者及びエイズ患者の現状eという質問について、都市部出身者の正確率は最も高く、71.6%を占めた。全体の状況を見ると、質問dの正答率は19.0%であった。「クラミジアや淋病などの性感染症」に関する知識が不足している状態と言える。また、エイズの感染経路に関する質問gの全体正答率が29.5%、感染経路の質問fの全体正答率が57.4%であった。

種類4は、LGBTに関する質問1である。同性愛は疾病ではないことについて、都市部出身者の実施率は74.5%、農村部出身者67.7%、中間部出身者67.7%であった。都市部出身者は、農村部出身者及び中間部出身者より、LGBTに対し、やや受け入れやすいことが推測できる。

表8 性に関する知識の質問の正答率について（地域別）

質問	全体		農村部		都市部		中間部		$\chi^2$ 検定
	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	
a. 膣外射精（外だし）は、確実な避妊方法	180	45.5%	83	37.1%	65	59.1%	32	51.6%	*
b. 排卵は、いつも月経中におこる	177	44.8%	96	42.9%	54	49.5%	27	43.5%	
c. 精液がたまりすぎると、身体に悪い影響がある	104	26.4%	58	26.0%	32	29.4%	14	22.6%	
d. クラミジアや淋病などの性感染症を治療しないと、不妊症になる（赤ちゃんがでなくなる）ことがある	75	19.0%	36	16.1%	27	24.8%	12	19.4%	
e. 中国でこの10年間、新たにHIVに感染する人とエイズ患者は増えていない	254	64.5%	134	60.1%	78	71.6%	42	67.7%	
f. エイズ患者あるいはHIV感染者と一緒に水泳すること、食事すること、シャワーを浴びること、ハグすることはHIVに感染しない	226	57.4%	129	57.8%	59	54.1%	38	61.3%	
g. 唾液、蚊が原因でHIVには感染しない	116	29.5%	65	29.3%	29	26.6%	22	35.5%	
h. 経口避妊薬（低用量ピル）の避妊成功率は、さわめて高い	40	10.2%	18	8.1%	15	13.8%	7	11.3%	*
i. 緊急避妊薬は女性の体に危害がない薬である	317	80.7%	176	79.3%	92	84.4%	49	79.0%	
j. 緊急避妊薬は一年間に何回も服用しても体に悪い影響を及ぼさない	241	61.3%	128	57.7%	73	67.0%	40	64.5%	
k. 人工妊娠中絶は危険がまったくない	330	84.0%	181	81.5%	95	87.2%	54	87.1%	
l. 同性愛は疾病である	275	69.6%	151	67.7%	82	74.5%	5	67.7%	

\* p&lt;0.05

## (3) 大学生の性行動について

## 1) 恋愛状況について

表9は、山東省のB大学、C大学の大学生の恋人を有する状況を表している。男女別に分析すると、調査を行った時に、調査対象者が一人の恋人と付き合っている女子大学生の比率（39.9%）が、男子大学生（17.9%）より高い。複数の恋人がいる女子大学生の比率（2.1%）は男性（6.0%）より低い。また、現在恋人がいないが、男性（31.6%）が女性（17.9%）より恋人を探したい比率は強い。したがって、現在、恋人がいないが、恋人を探したい比率は、男性のほうが女性より多い。山東省において男子大学生が女子大学生より、恋人と付き合いたい意欲が高い。しかし、現実には女子大学生が、恋人と付き合っている人が多い。恋人を有する状況（男女別）について、「彼氏1人がある」、「いないが、彼女がほしい」には、有意差があった。

表9 大学生の恋人を有する状況（男女別）

	全体 (n=408)		男性 (n=117)		女性 (n=291)		$\chi^2$ 検定
	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	人数 (人)	比率	
彼女1人がある	24	5.9%	21	17.9%	3	1.0%	
彼氏1人がある	116	28.4%	0	0.0%	116	39.9%	*
彼女2人以上がある	9	2.2%	7	6.0%	2	0.7%	
彼氏2人以上がある	7	1.7%	1	0.9%	6	2.1%	
いないが、彼女がほしい	41	10.0%	37	31.6%	4	1.4%	*
いないが、彼氏がほしい	52	12.7%	0	0.0%	52	17.9%	
いないが、特にほしいと思わない	159	39.0%	51	43.6%	108	37.1%	

\* p&lt;0.05

表10は、大学生の恋人を有する状況（地域別）を表している。各地域において、「いないが、特にほしいと思わない」を選んだ者（38.8%）が最も多い。また、「彼女1人以上がいる」を選んだ者において、都市部



出身のほうが多く、5.2%を占め、「彼氏1人以上がいる」を選んだ者は、都市部出身のほうが多く、3.4%を占めた。また、「彼女1人がいる」を選んだ者の中で、「都市部」を選んだ者（7.8%）が最も多かった。「彼氏1人がいる」を選んだ者の中で、「農村部」を選んだ者（30.3%）が最も多かった。

表10 大学生の恋人を有する状況（地域別）

	全体 (n=407)		農村部 (n=228)		都市部 (n=116)		中間部 (n=63)	
	人数(人)	比率	人数(人)	比率	人数(人)	比率	人数(人)	比率
彼女1人がいる	24	5.9%	11	4.8%	9	7.8%	4	6.3%
彼氏1人がいる	116	28.5%	69	30.3%	31	26.7%	16	25.4%
彼女2人以上がいる	9	2.2%	3	1.3%	6	5.2%	0	0.0%
彼氏2人以上がいる	7	1.7%	2	0.9%	4	3.4%	1	1.6%
いないが、彼女がほしい	41	10.1%	27	11.8%	9	7.8%	5	7.9%
いないが、彼氏がほしい	52	12.8%	34	14.9%	8	6.9%	10	15.9%
いないが、特にほしいと思わない	158	38.8%	82	36.0%	49	42.2%	27	42.9%

## 2) 性に関する経験について

表11は、調査の時点まででの、山東省B、C大学における大学生の性に関する経験の有無を示している。性交渉の経験がない者について、男子大学生は80.3%、女子大学生は86.4%であった。また、「2人」、「3人」、「4人」、「5人」、「6人」と性交渉した者は、男子大学生（7.7%）より、女子大学生（4.8%）の比率より高い。

表11 大学生の性に関する経験の有無（男女別）

	全体 (n=403)		男性 (n=117)		女性 (n=286)	
	人数(人)	比率	人数(人)	比率	人数(人)	比率
1人と性交渉した	39	9.7%	14	12.0%	25	8.7%
2人と性交渉した	10	2.5%	2	1.7%	8	2.8%
3人と性交渉した	6	1.5%	1	0.9%	5	1.7%
4人と性交渉した	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5人と性交渉した	2	0.5%	2	1.7%	0	0.0%
6人と性交渉した	5	1.2%	4	3.4%	1	0.3%
性交渉の経験がない	341	84.6%	94	80.3%	247	86.4%

表12は、性に関する経験の有無状況について、出身地に関わらず「性交渉の経験がない」を選んだ者が最も多く、農村部（88.0%）、都市部（80.7%）、中間部（79.4%）であった。また、1人以上と性交渉した者は、「都市部」出身者（8.8%）が最も多く、次は「中間部」出身者（6.3%）、最後は「農村部」出身者（4.0%）であった。都市部出身の大学生は、性行動がやや活発なことが証明された。

表12 大学生の性に関する経験の有無（地域別）

	全体 (n=402)		農村部 (n=225)		都市部 (n=114)		中間部 (n=63)	
	人数(人)	比率	人数(人)	比率	人数(人)	比率	人数(人)	比率
1人と性交渉した	39	9.7%	18	8.0%	12	10.5%	9	14.3%
2人と性交渉した	10	2.5%	4	1.8%	2	1.8%	4	6.3%
3人と性交渉した	6	1.5%	2	0.9%	4	3.5%	0	0.0%
4人と性交渉した	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5人と性交渉した	2	0.5%	2	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
6人と性交渉した	5	1.2%	1	0.4%	4	3.5%	0	0.0%
性交渉の経験がない	340	84.6%	198	88.0%	92	80.7%	50	79.4%

表13は、調査時点に山東省大学生の性交渉状況（男女別）を表している。調査時点には、性交渉がない者が8割以上を占める一方、1人の性交渉相手がいることについて、男女差が大きい。また、複数の性

交渉相手がいることについて、男子大学生（3.4%）が女子大学生（0.0%）より多いことを示している。

表13 調査時点までの大学生の性交渉状況（男女別）

	全体（n=400）		男性（n=117）		女性（n=283）	
	人数（人）	比率	人数（人）	比率	人数（人）	比率
1人いる	45	11.3%	13	11.1%	32	11.3%
複数いる	4	1.0%	4	3.4%	0	0.0%
いない	351	87.8%	100	85.5%	251	88.7%

調査時点まで、山東省大学生の性交渉状況は表14の通りである。各年齢段階では、「いない」を選んだ者が最も多く、「18~23歳」に94.7%、「24~29歳」は4.7%、「30歳以上」は0.5%であった。「1人いる」を選んだ者の中で、「18~23歳」を選んだ者（65.2%）が最も多かった。「複数いる」を選んだ3名の方がすべて「18~23歳」という段階にいる一方、3名とも男性であった。

表14 大学生の性交渉状況（年齢別）

	全体（n=388）		1人いる（n=43）		複数いる（n=3）		いない（n=342）	
	人数（人）	比率	人数（人）	比率	人数（人）	比率	人数（人）	比率
18~23歳	355	91.5%	28	65.1%	3	100%	324	94.7%
24~29歳	31	8.0%	15	34.9%	0	0.0%	16	4.7%
30歳以上	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%

表15は、調査時点の大学生の性交渉状況（地域別）を表している。調査時点には、「いない」を選んだ者が最も多く、農村部（90.2%）、都市部（84.1%）、中間部（85.5%）であった。また、「1人いる」を選んだ者には、「中間部」（14.5%）、「都市部」（13.3%）、「農村部」（9.4%）であった。これは、「都市部」、「中間部」からの出身者が「農村部」出身者より性活動が活発であることを明らかにした。

表15 調査時点の大学生の性交渉状況（地域別）

	全体（n=399）		農村部（n=224）		都市部（n=113）		中間部（n=62）	
	人数（人）	比率	人数（人）	比率	人数（人）	比率	人数（人）	比率
1人いる	45	11.3%	21	9.4%	15	13.3%	9	14.5%
複数いる	4	1.0%	1	0.4%	3	2.7%	0	0.0%
いない	350	87.7%	202	90.2%	95	84.1%	53	85.5%

#### (4) 性に関する態度について

表16は、山東省の大学生の避妊実施状況（男女別）を示している。全体状況について、「いつも避妊している」を選んだ者が65.4%であった。性交渉があった大学生の答えから分析すると、「いつも避妊している」大学生の中で、女子大学生（73.5%）の比率が男子大学生（50.0%）より高かった。

表16 大学生の避妊実施状況について（男女別）

	全体（n=52）		男性（n=18）		女性（n=34）	
	人数（人）	比率	人数（人）	比率	人数（人）	比率
いつも避妊している	34	65.4%	9	50.0%	25	73.5%
場合による	16	30.8%	8	44.4%	8	23.5%
いつもしていない	2	3.8%	1	5.6%	1	2.9%

表17は、山東省大学生の避妊実施状況（地域別）を示している。「いつも避妊している」という答えに対して、「農村部」（60.9%）が最も低かった。また、「場合による」を選んだ者の中で、「都市部」（26.3%）が最も低かった。

表 17 大学生の避妊実施状況について（地域別）

	全体（n=52）		農村部（n=23）		都市部（n=19）		中間部（n=10）	
	人数（人）	比率	人数（人）	比率	人数（人）	比率	人数（人）	比率
いつも避妊している	34	65.4%	14	60.9%	13	68.4%	7	70.0%
場合による	16	30.8%	8	34.8%	5	26.3%	3	30.0%
いつもしていない	2	3.8%	1	4.3%	1	5.3%	0	0.0%

表18は、山東省の大学生がコンドームを必ず使用するかどうかの状況を表している。「コンドームを必ず使用する」ことに対し、54.9%の回答者は性交渉する時に必ず使用することを選んだ。さらに、女性の比率（58.8%）は男性の比率（47.1%）より多い。また、「使用したりしなかったりする」ことに対して、男女差が小さい。「いつもしていない」ことに対して、女性（2.9%）が男性（17.6%）より少ない。したがって、コンドームの使用について、男性より女性のほうが使用する意識が強い。

表 18 コンドームを必ず使用するかどうかについて（男女別）

	全体（n=51）		男性（n=17）		女性（n=34）	
	人数（人）	比率	人数（人）	比率	人数（人）	比率
必ず使用する	28	54.9%	8	47.1%	20	58.8%
使用したりしなかったりする	19	37.3%	6	35.3%	13	38.2%
いつもしていない	4	7.8%	3	17.6%	1	2.9%

表19は、コンドームを必ず使用するかどうかについて（地域別）、「必ず使用する」を選んだ者について、全体は54.9%であった。その中で、「中間部」出身者が最も多く、66.7%を占めた。また、「いつもしていない」を選んだ者について、「都市部」出身者が最も多く、15.8%であった。大学生の性交渉状況及び避妊実施状況から見ると、都市部出身者の性交渉が活発している一方、安全ではない性交渉が多かった。

表 19 コンドームを必ず使用するかどうかについて（地域別）

	全体（n=51）		農村部（n=23）		都市部（n=19）		中間部（n=9）	
	人数（人）	比率	人数（人）	比率	人数（人）	比率	人数（人）	比率
必ず使用する	28	54.9%	13	56.5%	9	47.4%	6	66.7%
使用したりしなかったりする	19	37.3%	9	39.1%	7	36.8%	3	33.3%
いつもしていない	4	7.8%	1	4.3%	3	15.8%	0	0.0%

## 4. 考察

### (1) 性に関する知識について

中国山東省における大学生の性に関する知識の調査結果から、山東省において、エイズ教育は積極的に学校教育を通じて導入されていると判断することができる。中国において、エイズ教育は小、中学校で導入され、主に中学校から、「生物」という授業で学校教育（教師、授業及び教科書）にて行われる。エイズ教育の実施時期について、男女差、地域差は小さかった。エイズ知識の理解について、男女差は小さく、出身地域（農村部、都市部、中間部）において大きな差は存在していない。エイズに関する知識の習得方法について、学校（先生、授業、教科書）の教育によって学ぶことが最も多かった。また、インターネットを通じてエイズに関する知識を知る学生も多くいた。

エイズに関して、「知っている、感染経路を知っている」と回答した者が約9割を占め、多くの大学生は自分自身が感染経路まで知っていると考えている。しかしながら、唾液、蚊によってHIVには感染しないこと、エイズ患者あるいはHIV感染者と一緒に水泳すること、食事すること、シャワーを浴びること、ハグすることではエイズに感染しないことなどについて、正答率が低いことが明らかになった。この原因の一つに、性教育の際に、AIDSの感染経路について、十分な説明を受けていないことが考えられる。また、上記の場合の以外にも、中国ではHIV感染の治療を受け難いために、AIDSの感染経路を知っていても、AIDS

に対する恐怖心から正しい判断ができにくいことが考えられる。中国では義務教育の段階で、学校教育において、性的接触による感染、血液感染、母子感染という三つの感染経路と、日常生活にHIV感染者及びエイズ患者と一緒に行動する時の感染可能性に関して、児童生徒に教えている。例えば、「生物学（八年級下冊）（人民教育出版社出版）」<sup>24)</sup>という科目の教科書には、エイズの感染経路に関する内容は以下の通りの記載がある。「HIVがエイズ患者及びHIV感染者の血液、精液または母乳、唾液、涙液、尿液に存在している。主に静注薬物使用、安全ではない性交渉によって感染している。HIVが含まれる血液または血液製品を使うこと、HIV感染者及びエイズ患者が使った注射器を消毒しないまま使うことによって、HIVに感染する。女性のHIV感染者及び女性のエイズ患者が出産、哺乳などを通じて、胎児または乳児にHIVを感染させる。……HIV感染者またはAIDS患者と握手することでは感染しない」と記載されている。さらに、感染経路に関する挿絵は以下の図3の通りである。また、日常生活における感染しない具体的な場面も表記されている。しかしながら、例えば、AIDS患者と一緒に水泳すること、シャワーすることで感染しないことなどのさらにより多くの例が必要である。かつ教師からの説明や具体的な理解を深める教育方法が取り入れられることも望まれるところを記載することである。



【図3】エイズ予防に関するパンフレット

生物学<sup>24)</sup>（八年級下冊）（教科書）（人民教育出版社出版）

さらに、池上（2001）<sup>25)</sup>は、エイズに対する偏見と差別意識を生じさせる要因は主に三つあると言っている。第一に、人類にとって新しく馴染みのない病気への恐怖から、社会が感染者自身を恐怖対象として捉えたためである。第二に、HIV感染の流行の初期に、社会の少数派の人たちの間で広がったため、彼らに対する偏見がHIV感染への偏見を助長した可能性がある。第三に、HIVは性行為により感染するため、「性」のモラルと結び付けて考えやすいためである（池上，2001）。エイズに対する認識の違いまたは認識不足は、エイズ患者及びHIV感染者を恐怖に陥れ、差別視する源になる可能性があると考えられる。したがって、学校教育でのエイズ教育は、感染経路、検査方法などの科学的な知識を正しく教えることはもちろん重要である一方、エイズ患者及びHIV感染者に対する理解や尊重も重要な課題としてエイズ教育に導入すべきだと考える。

昨今のインターネットが普及した時代には、性情報が氾濫している。しかしながら、インターネットで得られるエイズに関する知識は、間違っている可能性もある。したがって、エイズ感染経路に対する正しい知識及びその内容を教科書に記載することが必要であり、且つ教師からの教育も望まれるところである。中国ではインターネットに掲載される性に関する情報をより厳しく管理する必要がある。さらに、学校教育において、エイズに関する知識の普及を一層進展させなければならない。エイズに関して学ぶ手段に、現在中国の大学生の中で流行っているWeibo, Wechat, Instagram, bilibiliなどの活用も考えられる。

また、緊急避妊薬と経口避妊薬に関する質問に対する回答を比較すると、緊急避妊薬に関する質問の正答

率が高いことがわかった。中国では経口避妊薬も、緊急避妊薬も、処方が必要ない薬である。大学生の中で、経口避妊薬に関する知識の普及率が低い理由は、経口避妊薬は学校の教育でほぼ扱われていない内容だからである。一方、緊急避妊薬はその広告を学生がよくマスメディアで見る機会が多くあることが考えられる。また、緊急避妊薬には深刻な副作用があることが取扱説明書には記載され、そのため、緊急避妊薬には副作用があることを大学生が知っている可能性がある。緊急避妊薬の副作用に関する内容は以下の通りである。① 月経が変化する。緊急避妊薬を服薬した当月には、月経が普段より遅れる。または遅らせる可能性がある。② 軽い吐き気、頭痛、胸痛、眩暈、疲労などの症状が表れる。このような状態には対処する必要がなく、24時間後に自然に症状が無くなる。しかし、24時間後、症状が消失しなかったり、万が一、以上の症状が続いて表れるならば、受診する必要がある。③ 子宮異常出血の症状が表れると、子宮外妊娠の可能性があるため、早めの受診を行うこと。

経口避妊薬・緊急避妊薬・人工妊娠中絶に関する質問の正答率が、男子大学生より女子大学生のほうが高いことを示している。妊娠は女性しかできないことであり、女性の関心度が男性より高いことが明らかになった。

## (2) 性行動の男女差について

調査時点までに、恋人を有する状況について、男女差があった。また、男性の方が、同時に1人以上の恋人を持っている比率が高い。恋人のいない男性が女性より恋人を探したい比率が高かった。

冷艶ら(2007)<sup>26)</sup>が山東省における1973名の大学生に対し、性意識及び性交渉状況を調査した結果から見れば、大学生の性交渉体験率は9.2%であった。本調査において、全体の性交渉経験率(15.4%)から判断すれば、以前より、大学生の性行動の活発化が認められる。現在、山東省における大学生は、性の自由化が進みつつあると考えられる。しかしながら、山東省の大学生の性交渉の経験率が非常に高いとは言えない。その理由については、山東省における大学生の性に関する規範意識はまだ高いと推測されるからである。2009年の呉揚、凌莉<sup>27)</sup>が広東省で行った調査の結果によって、中国の大学生が入籍する前に、13.5%が性交渉の経験を持ち、男性が15.8%、女性が11.0%であった。これは本調査の調査結果と似ている。また、2005-2009年において、大学生の性交渉経験率が14.6%であり、2010-2015年では、大学生の性交渉経験率が17.4%であった。2019年に、楊銀梅ら<sup>28)</sup>の調査には、中国大陸地区における大学生の性交渉経験率が15.1%、男子大学生が21.1%、女子大学生が10.6%であった。中国全国において、大学生の性行動は活発化しつつあり、男子学生の性交渉経験率が高くなる傾向が窺える。

2009年の宋逸、季成葉、星一ら<sup>29)</sup>の調査結果から見ると、男性の性交渉経験率が14.8%、女性が5.6%であった。そのうち、二人以上の性交渉相手を持っている男性が41.7%、女性が28.5%であった。さらに、コンドームの使用率について、男性は48.5%である一方、女性は51.5%であった。性行動における男女差が出る理由について、交際相手に対する忠実度は、女性が男性より強いと宋逸ら<sup>29)</sup>は述べた。本調査の結果によって、大学生の性に関する経験の有無について、1人と性交渉した経験率、1人以上の相手と性交渉した経験率においても、男性の方が女性より高かった。特に、複数以上の性交渉相手を持っている男性が19.7%、女性は4.8%であった。

男子大学生の性交渉経験率が女子大学生より高い理由の一つに、20代の男性は性的欲求が女性より強いからであると考えられる。男性の性欲の出現が思春期から始まり、社会及び心理面の原因で決められないことではないとKinsey(1948)<sup>30)</sup>が指摘した。さらに、一般的には、男性は16~20歳に思春期に入り、この間、95%以上の男性は自慰及び性交渉などの性的な欲求の解放を行い始める。調査時点の大学生の性交渉状況について、複数の性交渉相手を持っている者は、男性の経験率が女性より高かった。一方、思春期にいる女性は性的欲求の解放が男性の五分の一しかないとKinsey(1948)が述べている。

女子大学生が大学では恋愛をせずに学業中心でいることを望む者が多い傾向があることがその理由だと考えられる。さらに、現在、中国社会において、入籍前に、男性の「童貞」と女性の「処女」に対して、異なる基準で判断する者が多くいる。入籍前の性交渉について、男性が経験してもかまわないと考えられている一方、入籍前に女性に対する「処女」の身体を守らなければならない要求はいまだに強い。これも、女子大学生の性交渉経験率が男性より低い理由の一つだと考えられる。



### (3) 性交渉の現状について

本調査によると、大学生の性交渉年齢について、18～23歳の年齢段階において、1人また複数の性交渉相手を持っている者が最も多かった。したがって、18～23歳という大学の段階で性交渉が最も多かった。その理由として、以下のことが考えられる。中国の義務教育段階（小、中学校）及び高校まで、校則では、恋愛が禁止されているため、青少年の性に対する抑圧が強いと考えられる。それは、中国における受験競争が厳しいことと関連があり、受験生の数に対して、大学数が少ないことが一因である。中国における各省の受験生人数は表20の通りである。

表20 2010～2018年中国における受験生数の推移（万人）

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
受験生数	951.13	918.63	902.45	894.61	907.35	872.83	922.05	914.85	932.51

（「中国全国各地大学入試申込情報調査」<sup>31)</sup>のデータをもとに筆者作成）

中国において、大学に入ることが就職に有利であるため、高考（中国の大学入学試験）が非常に激しい現状がある。高校の校則では、恋愛は、勉強の妨げになるとの考えから、学校での恋愛は禁じられている。禁止されても、すべての恋愛ができないとは限らないが、成就できる恋愛が稀なことは事実である。

さらに、調査を実施した二つの大学は、中国の公立大学である。学生が寮に住むことを入学条件としている。この二つの公立大学とも、男子寮と女子寮に分かれており、自分の性別と違う寮に入ることが厳禁となっている。よって、性交渉の場所は、大学の近くにあるホテル及びレンタルハウスであるとされる。筆者が調査した大学の近くには、実際に民泊式ホテルの数が多いという現状がある。しかし、民泊式ホテルの衛生状況は十分に安心できるとは言えず、さらに、本調査によって、学生は性感染症に対する意識が高いと認められないため、性感染症にかかるリスクも高くなる可能性がある。

### (4) 大学生の性行動の地域差について

地域別について、まずは、恋愛状況において、交際相手が複数以上いる者は、都市部が最も多く、次は農村部と中間部であった。これに対して、複数以上の性交渉相手を持っている者は、都市部が最も多かった。この理由について、都市部における経済力が農村部及び中間部より強く、人口の移動が最も多い。都市部に住んでいる者は、外来文化及び性解放に関する自由な思想に触れやすく、性行動も活発化の傾向がある。

コンドームを必ず使用するものに対して、中間部が最も多く、つぎは農村部と都市部であった。大学生の避妊実施状況について、中間部が最も多く、つぎは都市部や農村部であった。その理由について、中間部及び農村部出身の大学生は都市部出身の大学生より、やや緊密な社会で育てられるため、結婚する前に、一旦妊娠したら、周囲の視線が気になり、心理面及び実生活に大きな影響があると考えられる。道徳感が強い社会で生活すると、妊娠はすでに個人の問題ではなく、自分が生活している社会に影響し、また影響される可能性が高い。特に女性の立場からみると、結婚前の妊娠は自分の人生を潰すことと同じであると想像に難しくない。そのため、中間部及び農村部出身の大学生は、都市部出身の大学生より、さらに女性が男性より、積極的にコンドームを使っていると考えられる。一方、都市部出身の大学生は、一旦妊娠すると、就職活動に不利であり、将来の発展の障害になる可能性が高いことを早くから知る機会がある。したがって、都市部出身の大学生は積極的に避妊を実施していると考えられる。

地域発展の差に関しては、都市部より、農村部における教育困難地域教育予算はまだ不足している。この地域発展の差は、性に関する教育に影響していると思われる。さらに、出身地と進学機会との間には、強い繋がりがあある。李春玲<sup>32)</sup>らは、都市部出身か農村部出身かが進学に強い影響していると述べている。各年代における教育機会及び人口変化を考慮せず、性別、父親の職業、父親が受けた教育の年代が同じである場合、小学校に進学する機会、都市部出身の子供は、農村部より4.9倍である。中学校に進学する機会に関して、都市部出身の子供は、農村部より3.6倍である。高校に進学する機会に関して、都市部出身の子供は、農村部より1.9倍である。進学可能性も、性に関する教育をうける機会と繋がりがああると考える。

また、農村において、生活環境などが不便なため、教師の流動性が高く、教育の安定性が維持しにくい。

さらに、農村にいる保護者は教育水準が低く、教育をうける機会が乏しかった。そのため、伝統的な価値観や文化の影響で、性に関することを家庭で話しにくく、子どもに性教育を実施する意識が低い。性意識についても、保護者は伝統的な価値観や文化の影響で、結婚前に性交渉がないため、子供の性感染症に罹患する可能性を想像しにくいと考えられる。

## 5. 結論

山東省の大学生における性交渉経験率の増加から判断して、性に関する教育を一層充実させるべきである。特に、エイズ及びSTIなどの日常生活と強い繋がりのある性に関する知識をより普及させる必要がある。さらに、農村部において都市部及び中間部より、性に関する知識の普及をより重視すべきである。また、男子大学生に対して女子大学生より、性感染症のリスクについてより強く認識させる必要があると考える。

## 引用・参考文献

- 1) 中国艾滋病性病編集部 2016「2016年全国艾滋病性病丙肝防治工作年会摘要」(訳: 2016年中華人民共和國全国におけるエイズ、性感染症、肝炎の予防や治療工作に関する年次報告). 中国艾滋病性病. Vol. 22, No.3, 142-144.
- 2) 中国疾病预防控制中心, 性病艾滋病预防控制中心, 性病控制中心 (NCAIDS, NCSTD, China CDC) 2018 2017年12月全国艾滋病性病疫情 (訳: 2017年12月全国におけるエイズ及び性感染症の状況). 中国艾滋病性病. Vol. 24, No. 2, 111.
- 3) 範明林、沈菲 2015 大学生婚前性行為及態度研究 (訳: 大学生における入籍前の性行為に対する態度研究). 当代青年研究. No.339, 82-87.
- 4) 王粒 2017 大学生性意識發展的研究綜述及教育启示 (訳: 大学生の性意識の發展に関する文献検討及び教育の啓発). 科教文匯. Vol.399, 131-132.
- 5) 王香梅 2017 大学生艾滋病知識知曉及需求情況調查 (訳: 大学生におけるエイズに関する知識の認識及び要求調査). 中国公共衛生. Vol.33, No. 4, 674-677.
- 6) 周燦燦, 劉叡娜, 王安, 劉愛萍, 李海振, 趙亞玲 2017 高校学生性及性病、艾滋病防治知識、信念和行為現狀 (訳: 大学生の性行動、性感染症及びエイズの予防知識、信念と行為の現狀について). 国外医学地理分冊. Vol.37, No.1, 89-91.
- 7) 崔旭 2017 中国の小学校における学校保健の実施必要性に関する検討—一日中対比の視点をもとに—. 現代文化研究. 第65号, 29-46.
- 8) 方剛, 董曉瑩 2015 中学性教育的不足与努力方向—基于对“全国中学性教育优秀教案评比”的分析 (訳: 中学校における性教育の不足と發展方向—中国全国の性教育に関する指導案試合の評価をもとに). 中国性科学. Vol.24, No.2, 95-98.
- 9) 齊麟 2017 高中生性教育現狀与对策研究—以浙江省两所高中为例 (訳: 高校生に対する教育の現狀と対策に関する研究—浙江省における二つの高校を例として). 中国性科学. Vol.26, No. 4, 154-157.
- 10) 陳新新 2006 关于大学性教育问题的几点思考 (訳: 大学における性教育の問題に対する考え). 南華大学学报 (社会科学版), Vol. 7, No.2, 95-97.
- 11) 中共中央国務院 2016 健康中国2030规划纲要 (訳: 健康中国2030計画綱要) [http://www.gov.cn/zhengce/2016-10/25/content\\_5124174.htm](http://www.gov.cn/zhengce/2016-10/25/content_5124174.htm) (2019年5月6日閲覧)
- 12) 中華人民共和國教育部發展規畫司 編 2014 中国教育統計年鑑2014年版 人民教育出版社 <https://spc.jst.go.jp/statistics/edustats/2014/> (2019年6月14日閲覧)
- 13) 王娟, 常征 2012 中国城乡结合部的问题及对策: 以利益关系为视角 (訳: 中国城郷結合部(中間部)における問題及び対策について). 經濟社会体制比較. Vol. 161, 163-173.
- 14) IUD領導決策数据分析中心 2017 年地方政府工作報告数据快報 (訳: 2017年地方政府工作報告データ報告). 領導決策信息. Vol.6, 28-31.

- 15) 山東統計年鑑 2018 主要年份总人口 (訳: 主要年の総人口)  
<http://www.stats-sd.gov.cn/tjnj/nj2018/zk/indexch.htm> (2019年5月7日閲覧)
- 16) 山東省概要 <http://miyata.gotdns.com/china/shandong.htm> (2019年5月8日閲覧)
- 17) 山東省第六次人口普查办公室 2012 山东省2010年第六次全国人口普查主要数据公报 (訳: 2010年山東省における第6次全国国勢調査の主なデータの公表) . [http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/dfrkpcgb/201202/t20120228\\_30400.html](http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/dfrkpcgb/201202/t20120228_30400.html) (2018年9月28日閲覧)
- 18) 李国恩 2000 安土重迁: 中国人稳定性的传统社会心理 (訳: 住み慣れた土地に離れ難い: 中国人の安定的な伝統社会心理) . 済南大学学报. Vol. 10, No. 4, 14-18.
- 19) 王浩, 張娜, 薛付忠, 王萍, 康殿民, 劉言訓 2015 山东省艾滋病病毒感染者及艾滋病患者空间流行特征 (訳: 山東省における HIV 感染者及びエイズ患者の空間流行特徴について) . Vol. 53, No. 2, 81-86.
- 20) 中国国家统计局 2011 2010年第六次全国人口普查主要数据公报 (第2号) (訳: 2010年中国全国国勢調査の主なデータの公表) .  
[http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/201104/t20110429\\_30328.html](http://www.stats.gov.cn/tjsj/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/201104/t20110429_30328.html) (2018年9月28日閲覧)
- 21) 中華人民共和国教育部 2017 全国普通高校名单 (訳: 全国における大学及び専門学校の名簿) . [http://www.moe.gov.cn/srcsite/A03/moe\\_634/201706/t20170614\\_306900.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A03/moe_634/201706/t20170614_306900.html) (2018年5月11日閲覧)
- 22) 山東省教育厅 (省委教育工委) 2018 山东省教育系统改革开放40周年研究 (訳: 山東省における教育システム改革開放40周年研究) . [http://edu.shandong.gov.cn/art/2018/12/6/art\\_60396\\_3766717.html](http://edu.shandong.gov.cn/art/2018/12/6/art_60396_3766717.html) (2019年5月11日閲覧)
- 23) 中華人民共和国教育部 2018 2017年全国教育事业发展统计公报 (訳: 2017年中国全国教育事業發展統計公報) . [http://www.moe.gov.cn/jyb\\_sjzl/sjzl\\_fztjgb/201807/t20180719\\_343508.html](http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/sjzl_fztjgb/201807/t20180719_343508.html) (2019年5月11日閲覧)
- 24) 生物学 (八年級下冊) 2013 人民教育出版社, 84-85.
- 25) 池上千寿子 2001 「性を語る」『エイズを知る』角川書店, 42-56.
- 26) 冷艶, 劉忠華, 肖正, 孫桐 2007 山東省1973名大学生性態度及性行为調查分析 (訳: 山東省1973名の大学生の性意識及び性行為の調査分析) . 中国健康教育 Vol. 23, No. 11, 807-809.
- 27) 吳揚, 凌莉 2009 大学生婚前性行为态度及与性行为关系 (訳: 大学生の結婚前の性態度と性交渉の関係) . 中国公共衛生. Vol 25, No. 9, 1025-1027.
- 28) 楊銀梅, 沈雅利, 李十月, 燕虹 2019 中国大陆地区大学生性行为发生情况meta分析 (訳: 中国大陸地区において大学生の性交渉発生状況のメタ分析) . 中国公共衛生. Vol. 34, No. 1, 142-147.
- 29) 宋逸, 季成葉, 星一, 胡佩瑾, 陳天嬌, 張琳 2009 中国大学生性行为现况分析 (訳: 中国における大学生の性行動現状分析) . Vol. 30, No. 2, 116-121.
- 30) 金賽性学報告 (The Kinsey Reports) Alfred C. Kinsey. (潘綏銘 訳) . 60-61.
- 31) 全国各地地区高考报名信息查询 (訳: 全国各地地区における大学入学試験申込情報調査) (2010-2018) <http://gaokao.eol.cn/gkbm/> (2019年6月5日閲覧)
- 32) 李春玲 2014 教育不平等的年代变化趨勢 (1940-2010) - 対城郷教育機会不平等的の再考察 (訳: 教育不平等に関する年代の変化トレンド (1940-2010) - 城郷教育機会不平等に対する再考察) . 社会学研究. 65-89.